

新育第 9 9 4 号の 2
令和 2 年 1 2 月 1 5 日

認可保育園長様
認定こども園長様
地域型保育事業施設長様
認可外保育施設長様
病児保育施設長様

新潟市こども未来部
保 育 課 長
(担当 保育指導グループ)

令和 2 年度（上半期）事故発生報告について

日ごろより、保育中の園児の健康及び安全について十分ご配慮いただき感謝申し上げます。

また、保育中の事故報告の提出についてもご協力いただきありがとうございます。

本年度上半期（4月～9月）の「災害報告書」「事故報告書」を集計し、結果を別紙のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

事故における全体の傾向について、ご確認いただき、事故再発防止の参考にさせていただきますようお願いいたします。

◆問い合わせ先◆

こども未来部保育課

保育指導グループ 長谷川・小島

TEL 025-226-1216

(内線 31216)

【事故報告件数(R2.4月～9月)】

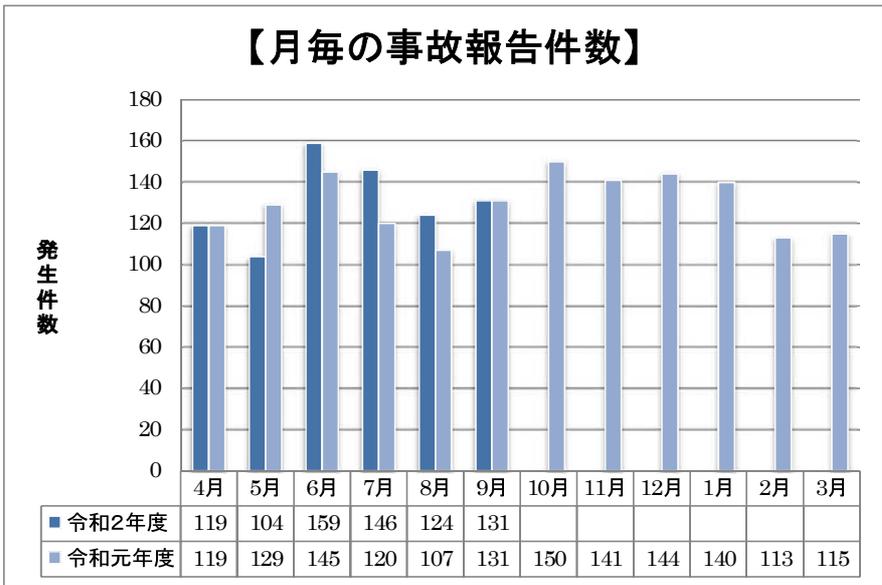
* 事故報告件数は、市立・私立保育園、認定こども園、地域型保育事業施設の合計

令和2年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計							
報告件数(合計)*		119	104	159	146	124	131	783	前年度との比較						
部位	骨折	9	5	10	8	13	6	51	<4月～9月の事故発生件数>						
	頭	14	4	10	3	8	8	47	R2年度 783 件						
	口・歯	30	42	43	50	31	48	244	R元年度 751 件						
	目・目の周り	13	13	14	15	24	12	91	<4月～9月の						
	額	11	3	8	7	4	6	39	国報告対象となった重大事故>						
	あご	5	5	3	2	1	2	18	R2年度 8 件						
	頬	10	6	14	4	2	9	45	R元年度 7 件						
	肘内障	10	7	16	19	11	14	77							
	その他	17	19	41	37	30	26	170	※その他…上記部位や骨折・肘内障以外のケガ						
うち県・国への報告		1	0	1	3	2	1	8	※4月の国報告1件は、前年度3月下旬に発生した事						
令和元年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
報告件数(合計)*		119	129	145	120	107	131	751	150	141	144	140	113	115	1554
部位	骨折	6	3	11	4	4	7	35	12	4	6	7	8	5	77
	口・歯	51	47	43	44	32	49	266	41	45	44	53	29	34	512
	目・目の周り	15	14	15	11	4	18	77	18	21	19	16	19	15	185
	肘内障	8	11	9	7	13	13	61	13	13	16	9	10	3	125
	その他	62	48	68	37	42	49	306	63	58	50	34	44	62	617
うち県・国への報告		3	1	1	1	0	2	8	2	1	2	0	0	2	15

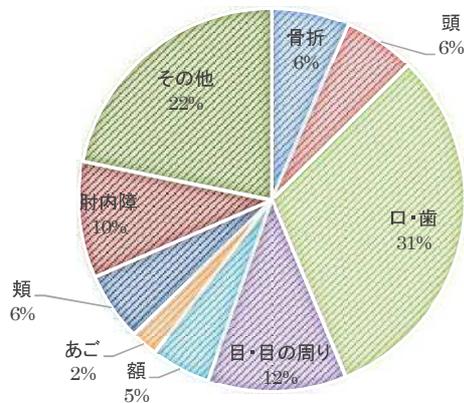
今年度より、これまで「その他」に含んでいた「頭」「額」「あご」「頬」のケガを抽出しカウントすることにした。

平成29年度からの傾向では、年度初めの4・5月に事故が多く、夏場やや減少し、秋口にまた増加する」というものでしたが、今年度は、5月に減少、6～8月に前年度より増加という形になっています。

今年の5月は、コロナウイルス感染症拡大防止により登園自粛のご協力をいただき、登園するお子さんが減少したことによるものと考えられます。また、6～8月の増加については、この時季に行われている「プール活動・水遊び」が、密を避けるという観点から積極的に行われず、その分園庭や遊戯室・保育室で遊んだことによるものと考えます。



【種類別事故件数の割合】(R2.4月～9月)



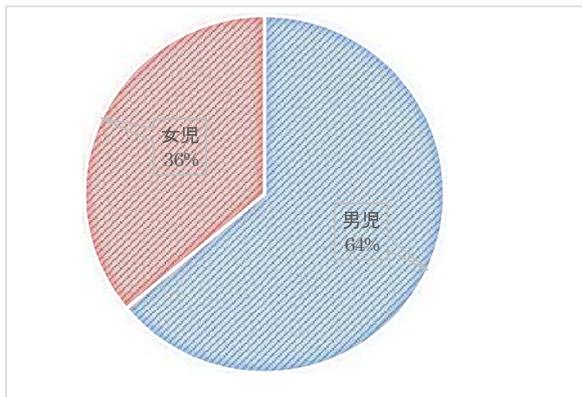
左の円グラフは、上半期の事故及び種類別の割合を示したものです。

昨年度、事故検証委員の方や園から「その他の件数が非常に多いが、どのような内容が含まれているのか」という質問を受けたので、今年度から「頭・額・あご・頬」のケガをその他から抽出しカウントしました。その結果、改めて頭・顔面のケガが多く全体の61.8%であることがわかりました。

ケガの種類としては、「打撲」「裂創」「擦過傷」などですが、皮膚のうすい「額」「あご」のケガは、裂創となり縫合処置をされるケースも少なくありません。縫合処置(医療用ホチキス含む)は、「重大事故等」の件数としてカウントしています。

【事故件数男女比】

(R2.4月～9月)



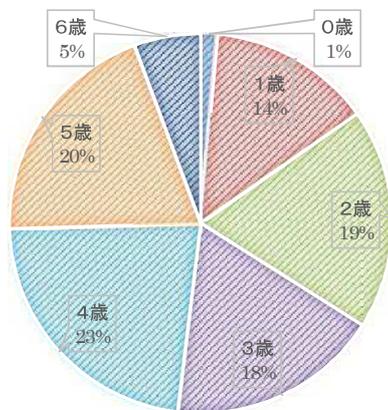
年齢	性別	男児	女児	計	年齢比
0歳		8	3	11	1.4%
1歳		69	39	108	13.8%
2歳		95	52	147	18.8%
3歳		93	47	140	17.9%
4歳		112	65	177	22.6%
5歳		98	57	155	19.8%
6歳		25	19	44	5.6%
計		500	282	782	

男女比 男児 64.0% 女児 36.0%

上記の表・円グラフは、事故報告の男女比・年齢比を示したものです。全体の事故報告件数の64%が男児、36%が女児で、例年の傾向どおり、男児の事故が多いということが分かります。(令和元年度は、男児61% 女児39%)

【事故件数年齢比】

(R2.4月～9月)



年齢比では、3歳～6歳が67%を占めていることがわかります。(令和元年度は68%)

幼児期になると、走ったり登ったり活発な動きをすることができるようになります。周囲の状況に対する判断が十分にできないため事故が多くなり、骨折など大きな事故も起こしやすくなると言われていますが、4月～9月に発生した骨折事故51件のうち46件が3歳～6歳の事故でした。

内訳は、3歳児・・・5件 4歳児・・・12件

5歳児・・・23件 6歳児・・・6件で、年齢が

上になるほど大きな事故につながっていることがわかります。

【鉄棒による事故】

毎月報告される事故の中で、鉄棒によるものが度々あります。鉄棒など高さのある遊具は子どもにとって魅力的であると同時に、保育者は安全に注意する必要があります。高いところから落ちた際、幼児はまだうまく受け身をとることができなかつたり、体をうまくコントロールできずに鉄棒への衝突を回避できなかつたりと、大きなけがにつながる恐れがあります。

今年度はコロナウィルスによる緊急事態宣言解除後、戸外遊びが増えた5・6月に報告が多く寄せられました。

鉄棒事故報告

(令和2年度4月～9月)

年齢	性別	傷病名	発生状況
3歳	男児	打撲	園庭で草花を摘んだ後、後方にある鉄棒をくぐろうとしたが、帽子を深くかぶり前方がよく見えず、鉄棒に額をぶつけた。
5歳	女児	眼球打撲	延長保育中、鉄棒に足をかけようとした他児の足が、そばにいた児の右眼にぶつかった。
4歳	男児	外傷性歯牙破折	前回りをしようとして飛びついたところ、左前歯を鉄棒にぶつけた。
5歳	女児	外傷性歯冠破折	延長保育中、鉄棒で前回りをしようとしたところ、勢いよく口を鉄棒にぶつけた。
5歳	女児	擦過傷	鉄棒で”こうもりおり”の練習中、地面に手をつけていたが、足を下ろした際肘が曲がり、左目元から頬を地面にすりむく。
4歳	女児	外傷性歯牙亜脱臼	鉄棒で前回りをした際、着地の時に手を放してしまい口から地面に落下した。
4歳	女児	歯の打撲	鉄棒にぶら下がりながら足を上げようとした際バランスを崩して手を放してしまい、地面に顔面を打った。
5歳	女児	打撲擦過傷	鉄棒で前回りをした際、手を放してしまい落下し、地面に鼻をぶつけた。
5歳	男児	捻挫	鉄棒に座り、バランスを崩して前のめりに落下。手をつけて着地をした際、右手首を痛めた。
5歳	女児	上唇小帯裂傷	鉄棒を握り、両足を鉄棒にかけ回転したところ、手が滑り地面に口元から落下した。
4歳	男児	創傷	滑り台に向かって走り出した際、鉄棒に気づかず、鉄棒に左目尻付近をぶつける。
3歳	女児	上唇小帯裂傷	延長保育中、段ボール箱の足場の上に乗る、鉄棒にぶら下がっていた。降りようとした際、口を鉄棒にぶつけた。
5歳	女児	捻挫 骨折の疑い	延長保育中、鉄棒で前回りに挑戦中、鉄棒上で体を支えきれず右腕を下にして後方から転落した。

～鉄棒での事故を防ぐために～

子どもへの指導

○遊びのルールを教える

- ・職員がそばに付いているときに遊ぶ
- ・鉄棒から手を離さない
- ・鉄棒の上に座ったり、歩いたりしない

などの基本的なルールをしっかりと子どもに伝えましょう。



保育施設の対策

○特性に合った指導

幼児一人ひとりの年齢や体力、運動能力などを考慮して、適切な指導を行いましょう。

○職員体制

- ・必ず職員がそばにつき、危険がないよう注視する
 - ・職員の配置体制が整わない場合には、鉄棒遊びの中止を検討する
- 特に延長保育・土曜保育など普段と異なる保育の場合は注意しましょう。

○遊具の整備・補修を念入りに

- ・摩耗や腐食等の老朽化はないか
 - ・危険な突起や折れ曲がり等はないか
 - ・地面にコンクリートや石がむき出しになっていないか
- などを定期的に点検し、整備・補修を行いましょう。また、雨上がりのあとは滑りやすくなり危険です。水滴はしっかりとふき取りましょう。

○地面の素材を柔らかいものにする

落下した場合を考え、地面にウッドチップやゴム、人工芝やクッション性のあるマットを敷くとよいでしょう。

各施設において鉄棒だけでなく、全ての遊具の使い方(約束事)、安全管理、園児への安全指導等、全職員で情報を共有しておくことが大切です。



令和元年9月発行の「保健情報だより」で、市内の保育施設で発生した「タオル掛けフックによる事故」について情報提供を行い、「生活環境の再確認」をお願いしました。

今年度、監査が実施された保育施設の中で、情報提供を受け、写真のとおり、園内で工夫をし安全に過ごせる環境を整える取り組みをしている園がありました。

他にもこのような取り組みを行われている園があるかもしれません。「自分の園でも起こるかもしれない」と受け止め、日々、小さな気づきを積み重ねていくことが、事故防止につながっていくことだと思います。

フックのカバー部分は牛乳パックで作成。
通常はフックを隠していて、タオルを掛けたり外したりするときに開くようになっています。